

No. J2314

フランス領インドシナの遺跡保存とツーリズム：

アンコール遺跡群の保存理念生成史と周辺地域シェムリアップの形成史

国立文化財機構 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター

アソシエイトフェロー

黒岩 千尋

本研究は、フランス領インドシナ、中でもカンボジア・アンコール遺跡群とその周辺地域シェムリアップを対象に、「遺跡保存」「ツーリズム」という近代理念が本国から導入され植民地で展開していく過程を明らかにすることを目的とする。

同地域では遺跡保存とツーリズムのための整備に関して、本国とは異なる独自の制度を導入していることをこれまでに確認してきた。本研究期間では、関連する遺跡保存、都市計画の図面や行政史料を探すため、フランス・カンボジアの史料館での調査を実施した。

①史料館調査

・フランス領カンボジアの遺跡保存と都市計画に関連する史料を確認するために、2023年8月6日～19日にカンボジア・プノンペンへ渡航し、カンボジア国立公文書館にて16ファイル925ページの文書を収集した。

・フランス領カンボジアおよびインドシナ全土の遺跡保存関連の調査記録・制度制定の史料確認のため、2023年11月6日～16日にフランス・エクサンプロバンスへ渡航し、国立海外文書館にて写真約100点、地図・図面約15点、文書約2,300ページを収集した。また、パリでは当時の遺跡関連史料や遺物を展示しているギメ美術館を訪問して史料確認を行った。

②収集史料の読解・分析

収集史料のうち、昨年度までに発表してきたフランス領インドシナの遺跡保存の黎明である「歴史的記念物」に関する追加史料を先行して分析を行い、歴史的記念物の指定と保護について制度・組織化していく過程を確認した。周辺地域であるシェムリアップのツーリズム拠点化・都市計画については、収集史料の内容を読解・分析中である。

③研究成果の報告

研究成果は所属機関の研究会で報告したほか、2024年3月7日～8日に東京都市大学にて開催された2023年度(第94回)日本建築学会関東支部研究発表会において、梗概提出・口頭発表を行った。さらに2024年6月10日～14日にタイ・バンコクで開催される国際会議にて、本研究成果を口頭発表予定である。